グンバイトンボ　*Platycnemis foliacea sasakii* Asahina

【選定理由】

旧市町村単位の絶滅率は50%、現存数は 4.5 であり、絶滅危惧ＩＢ類に相当する。

♂. 犬山市池野押出, 2007 年 6 月 21 日, 安藤 尚 撮影

【形　態】

♂の中・後肢の脛節は顕著に扁平化し、白い軍配状となっているのが特徴的で、和名もその軍配状の肢に由来する。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾張～西三河の丘陵地から低山地にかけての 9 市町村で記録されている。東三河では新城市（旧作手村）の記録がある。

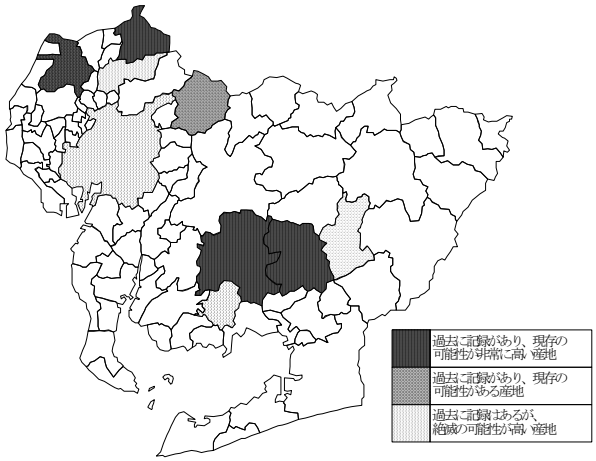
【国内の分布】

本州東北部から九州中部にかけて記録されている。

【世界の分布】

原名亜種が中国に分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

成熟成虫は、おもに河川中流域の清流や、その周辺の伏流水などにより年中水が枯れることがなく、岸辺に藻など沈水植物が豊富な緩流や池に見い出される。未熟成虫は、ほとんど生息地を離れない。幼虫は、岸辺の沈水水草や沈水藻類につかまっている。

5 月末頃から羽化が観察され､成熟成虫は 8 月末頃まで見られる。1 年 1 化と思われる。

【現在の生息状況／減少の要因】

矢作川水系と木曽川水系に現存する。近年、一宮市の木曽川南派川で新産地が発見されたが、木曽川の上流側には本種の良好な産地が残されており、そこから流下した個体が定着した可能性が考えられる。庄内川水系に属する瀬戸市の産地は近年調査されておらず、生息状況はわからない。矢作川水系では、1990 年代には支流の乙川水系の広範囲で確認でき、水田中の用水路でも見られるほどであったが、2000 年代に入ると急激に個体数が減少した。東三河では新城市（旧作手村）で記録されているが、耕地整理と共に生息地は失われた。戦前には名古屋市内でも記録されていたようだが、市街地化とともに絶滅した。

本種幼虫は水質の悪化にかなり弱く、また産卵場所であり、幼虫の生息場所となる岸辺の植生が護岸工事等により失われると、絶滅してしまう脆さを有している。近年は荒れた山によると考えられる大水が出ることも多く、本種の生息環境に大きなダメージを与えているようである。

【保全上の留意点】

1）成虫の産卵域や幼虫の生息域となる岸辺の植生の確保
2）河川の水質汚濁の防止

（吉田雅澄）